

2023 年度 ものづくり大学埼玉県地域連絡協議会実施報告

1. 日時、実施会場・形式

2024 年 2 月 29 日(木) 13:30~15:10

ものづくり大学 本部棟 2 階 大会議室にて会場と Zoom 配信のハイブリッド形式

2. 出席団体数

13 団体 14 名

3. 議事

- (1) 今後の大学の運営計画と方針+技能五輪国際大会 NEWS (國分学長)
- (2) 産学連携の新たな取組~「社会課題解決型」産学・地域連携の推進など~ (眞鍋ものづくり研究情報センター主幹)
- (3) 連携の質的発展のための包括連携協定締結のお願い (福地広報担当参事)
- (4) その他
 - ・新・学生工房設立への支援のお願い(荒木情報メカトロニクス学科教授)
 - ・教養教育センターの活動報告(澤本教養用教育センター長、井坂図書館・メディア情報センター長)
- (5) 意見交換

4. 意見交換詳細

◎コロナ禍による影響、課題認識について

→コロナ禍初期は、実習授業を止めないために、マスクやフェイスガードの配布など速やかに対策を行った。コロナ禍でオンライン授業を開始したが、学生に対して新しい授業のあり方を提示できた。オンライン授業は、形式知を学ぶのであれば有効であることが分かった。これからは、オンライン授業に慣れた高校生が大学に入ってくる。友達と一緒に受けるリアルな授業は楽しものだと思ってもらう必要が出てくるのではないかと。

◎今年度、高大連携に注力した成果について

→大学は、教員の持っている知識などの資源を高校、中学校、社会人などに幅広く提供する使命があると思って教育連携を始めている。

◎産学連携について、どの部署が窓口になり企業のニーズとのマッチングを行っているのか。

→ものづくり研究情報センターが窓口を担当している。これまで、技術相談や大学のシーズ発表を行ってきた。今後は、企業の技術を担当している部署とのつながりを強くしたいと考えており、課題を解決しやすい連携を作っていきたい。

◎金融業界、労働組合、メディアとも連携すると社会課題解決型の連携がさらに広がるのではないかと。

か。

→金融業界とは協定を締結し連携を進めているところではあるが、実績が追いついていない状況である。

→メディアとの連携については、昨年、県内報道機関の支局長らと大学見学・交流会を開催している。来年度もメディアとの交流会を続けたいと考えている。

◎新・学生工房をスタートアップ企業と学生の交流の場にできないか。

→スタートアップ企業との連携はぜひ実施したいと考えている。本学には射出成型機や鋳造設備もあるため、試作品の製作など全てできる。

◎産業界は人手不足が深刻な状況である。県内企業への就職を勧めてほしい。

→学生の職業選択の自由もあるが、できる限り努力したい。

◎建設業界からすると、カリキュラムの中でBIMやCIMについて教えてほしい。また、社会人対象に公開講座でも取り上げてほしい。

→2024年度の第3クォータから、BIM、CIMに関する講義を開講する。



▲会場の様子



▲意見交換の様子

以上